

紀北農芸高等学校

実施日時	令和3年 10月 22日（金）
参加者	生徒 69 名、教職員 21 名、地域住民等 0 名 計 90 名
実施内容	心肺蘇生法、津波講話、アルファ化米炊き出し訓練 災害避難ゲーム

ねらい

有事（地震・火災等）に備え、地域住民と連携し、防災知識・技術を高めることを目的とする。

主なプログラム

- 1 心肺蘇生法（AED 講習）
- 2 津波講話（DVD 視聴）
- 3 アルファ化米炊き出し訓練
- 4 災害避難ゲーム

概要

- 1 東南海地震を想定した、避難時の救助方法、避難方法、炊き出しを中心に実施した。また、地震発生時に津波が起こることを想定し、津波からの避難を中心に学習した。
- 2 本年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止を観点においた心肺蘇生法を学習した。また、感染拡大防止のため、今年度も地域住民の招待は控えることとした。

参加者感想文

・心肺蘇生法

（1 年男子）中学校の時、職場体験で AED 講習を受けたことがあります。その時と今のコロナウイルスでやり方が変わったので、何かあった時に、今日習った感染症対策をしながら行きたいです。

（1 年女子）もし自分がそんな状態になった場合のことを考えたらとても勉強になりました。AED 講習を振り返ってみて、そんな場合になったらやりたいと思いました。

（1 年男子）私は中学校の時にやった経験があったので、忘れていたところも思い出しました。急にその時になったらできるようにしておかないといけない。自分は人を助けたいという気持ちがあるのでできるようにしたいと思いました。

（1 年男子）AED や救命の講習についての話は何回か聞いたことがありますが、頭でわかっているけどいざとなった時に行動に移せるかが大事だと思いました。

（1 年女子）小学生の時に体験したことがすでにあっただけど、忘れていたことや覚えていたこともあり、あらためてしっかりと学ぶことができるとてもよかった。実際にこのような場面に出くわした時にしっかりと動ける人でありたい。

(1年女子)今はコロナの関係で顔を近づけたらだめとか人工呼吸をしたらだめなど気を付けることがいろいろあるのだと思った。

・津波講話 (DVD 視聴)

(1年男子)海に釣りに行く機会が多々あります。なので、もし海の側にいたり近くに住んでいる時に起こったりした時に、今回のDVDの内容を役立てるように覚えておきたいです。

(1年女子)津波を正しく知ることの大切さを認識できました。正しい知識を身につけることで、非常時にも正しい行動がとれるようにしていきたい。

(1年男子)改めて自然災害(津波)の速さ、強さなどの脅威を知った。一度避難した場所でも安心せず、津波・波浪警報が解除されるまで避難し続けたいといけなかったのは新しく知った。津波は第一波だけで終わらず基本第二波が異常な破壊力と推進力で家屋を次々となぎ倒す。そのため第一波がすぎても油断せず避難し続けることが命を守る最善策になると改めて思った。

・ α 化米炊き出し訓練

(1年男子)チキンライスを食べました。非常食にしては味がしっかりしていて量もあり、なおかつ水でできるということはすごいと思いました。

(1年男子)普通に好き。おいしかった。体育館に避難して、朝飯食べてなくて昼に初めて食べたっていう先生の例えを想像して食べたらすごくおいしく感じた。本当に避難して食べるものがなかったらありがたく食べます。

(1年男子)これだけの短時間で一食分の食料が得られることに驚きました。

(1年男子)災害が一度起これば電気、水、ガス、その他諸々が使えなくなり、生きるためのものがなくなります。そういう時に時間がかかっても食べられる非常食(α 化米)があるというのは、助けになると思います。また腹持ちも問題なく非常食として優秀だと思います。昼夜飲まず食わずで必死に避難された方にとっては精神的な支えにもなるかもしれないです。非常食を普段から備えておくこと、これは非常に大切だと改めて思いました。

(1年男子)予想以上においしかった。いろいろな種類もあるしやっぱり今は恵まれているなと思った。

・災害避難ゲーム

(1年男子)実際に起こりうることを想定しながらゲームをしていくことで、いざというときにどう避難したらよいかを考えながらできた。

(1年女子)実際に災害にあったらどうするかどう動くか、しっかり考えることができました。でも実際だったらパニックになるかもしれません。物を選ぶことに慎重になりました。

(1年男子)何をもっていけばいいのかわからなかったけど、やっていくと分かってくる。本当になったらこのようなゲームのようにしたいです。事前から荷物を準備しておくことが大切だと思いました。

(1年男子)1回目はクリアすることができませんでしたが、備えることで、非常時にも対応できるシミュレーションができました。

(1年男子)災害で非難する時、家はブレーカーをきり、施錠することと持ち出し品は必要最低限で迅速

に高い場所に避難することが大切だと思いました。災害が起こった後は家屋が倒壊して足場が悪くなり、避難しにくくなる。また持ち出し品によっては生存日数が変化し助かるかもしれないので、普段から非常品を備えておくこと、避難経路を確保することが大切だと改めて思いました。

(1年女子)事前に災害が起こったときのために、食料など準備しておくことが大切だと分かりました。

成果と課題

【成果】

「自然災害が多い日本では、事前の準備をすることで、非常時にも正しく対応し、少しでも早く行動することにつながれると思いました」「自助・共助は災害対策の一つになる」と感想に書いた生徒もおり、いつ発生するかわからない自然災害に備えて事前準備の必要性や、自分自身の命を助けるとともに、家族や地域の方々との協力し助け合う気持ちを持つことの大切さを学んだ生徒がみられた。また、今生活している地域が決して安全ではなく、危機感をもって生活することの必要性を感じた生徒がいたことも成果であった。

【課題】

今年度も昨年度と同様、コロナウイルスの感染拡大を防ぐことを前提としたので、地域住民や消防署員に来校していただくことができなかった。とはいえ、実際に災害が発生した際には、本校も避難所に指定されているので、コロナウイルス感染拡大を防ぎながら避難所の設営をしなければならないことを踏まえた防災学習を取り入れる必要があった。しかし、講義形式が中心であった昨年度に比べ、今年度は生徒自身によるグループ学習の形式を取り入れることができた。少しずつコロナウイルスの感染拡大が収束していくことを切に願う。来年度は、地域の方々にもご協力いただき、避難所としての本校の在り方を生徒とともに再確認していきたい。

開講



α化米炊き出し訓練



津波講話



災害避難ゲーム

